



SIC Annual Report
(SIC 年次報告)

平成 23 年度

INDEX

SIC の事業と顧客	p 1
1 インキュベーション施設と入居企業	
1 SIC-1	p 2.3
2 SIC-2	p 4.5
3 SIC-3	p 6
4 desk ^⑩	p 7
2 SIC 実施事業	
ー経営サポートー	
1 企業支援	p 8
2 相模原市中小企業新分野等支援事業	p 9
ー技術開発ー	
3 SIC 燃料電池研究会	p 10
4 さがみはら表面技術研究所	p 11
5 首都圏南西地域連携サポート事業	p 12
6 SIC 協創プロジェクト	p 13
7 バイオベンチャー人材育成活用事業	p 14
ー人材育成ー	
8 SIC 経営塾	p 15
9 SIC 職場リーダー養成塾	p 16
10 SIC 地域産業界の人づくり支援事業	p 17
11 さがみはら子どもアントレプレナー体験事業	p 18
12 SIC アントレ・インターンシップ	p 19
ー資金調達ー	
13 SIC 1 号投資事業有限責任組合	p 20
ー販路開拓ー	
14 台湾ビジネスサポート事業	p 21
15 ソーシャルビジネス創育支援事業	p 22
3 SIC 会社概要	
1 さがみはら産業創造センターの歩み	p 23
2 主な事業と開始年度（カテゴリー別）	p 24
3 財務状況	p 25
4 SIC 及び SIC ファンドの出資	p 26
5 競争的資金の獲得	p 26
6 スタッフ数の変遷	p 27
7 支援ネットワーク	p 27
8 海外及び国内からの視察受け入れ	p 28
9 新聞掲載	p 28
10 株主と役員	p 29
（資料）SIC 事業の変遷	p 30.3 1

SIC の事業と顧客数

		顧客数 (企業・団体数、参加者数)	創業期の 企業	成長期の 企業
インキュベーション 施設	S I C - 1	30 社	○	
	S I C - 2	25 社		○
	S I C - 3	7 社		○
	D e s k ⑩	25 名	○	
経営サポート	企業支援			
	顧問契約	5 社		○
	業務委託契約	14 社		○
	相模原市中小企業新分野等支援事業			
	企業力支援	9 社		○
	見にミニセミナー	18 名	○	○
技術開発	SIC 燃料電池研究会	16 社 2 大学 33 名		○
	さがみはら表面技術研究所			○
	首都圏南西地域連携サポート事業			
	フォーラム	339 名	○	○
	分科会			○
	SIC 協創プロジェクト			
	交流会	61 社	○	○
	ワーキンググループ	11 社		○
	バイオベンチャー人材育成活用事業	3 社 1 大学	○	○
人材育成	SIC 経営塾	12 名		○
	SIC 職場リーダー養成塾	18 名		○
	SIC 地域産業界の人づくり支援事業			
	企業訪問調査	306 社	○	○
	企業診断	9 社		○
	企業 PR	9 社		○
	さがみはら子どもアントレプレナー体験事業			
	子どもアントレ	42 名	—	—
	ジュニアアントレ	20 名	—	—
	SIC アントレ・インターンシップ	7 名		
資金調達	SIC1 号投資事業有限責任組合	11 社	○	○
販路開拓	台湾ビジネスサポート事業	4 社		○
その他	ソーシャルビジネス創育支援事業			
	地域発信プロジェクト	7 社 56 名		○
	メンタルヘルス	356 名	—	—
	i S B 公共未来塾	35 名	—	—

1-1

S I C - 1 (インキュベーションセンター)

入居対象

<新規創業者>

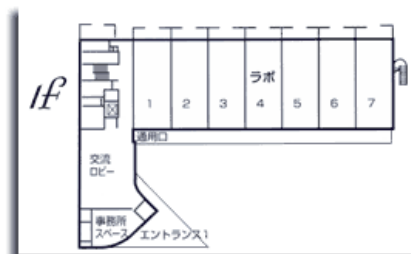
- ・創業準備中または創業間もない企業および個人
- ・研究開発により、新技術や新製品の創出を図り、その事業化を目指す創業間もない企業および個人

<企業>

- ・新分野進出により経営基盤の強化を目指す中小企業
- ・研究開発により新技術や新製品の創出を図り、その事業化を目指す中小企業

<専門家>

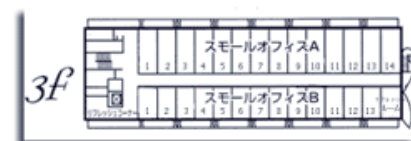
- ・入居企業および地域企業、創業者をサポートすることの出来る専門家
(弁護士、公認会計士、税理士、弁理士、デザイナーなど)



1 階平面図



2 階平面図



3 階平面図

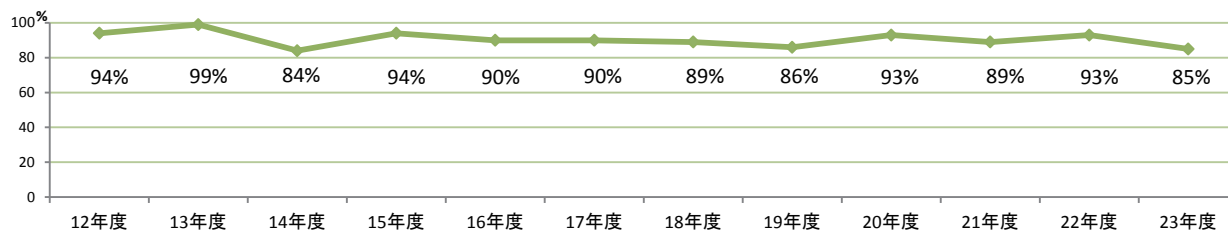
入居期間

3 年間 (2 回に限り 2 年間の再契約)

施設概要

	ラボ	セミラボ A	セミラボ B	スモール オフィス A	スモール オフィス B
設置階	1 階	2 階	2 階	3 階	3 階
部屋数	7 室	7 室	7 室	11 室	13 室
床面積	94.5m ²	47.3m ²	31.5m ²	23.6m ²	17.3m ²

入居率

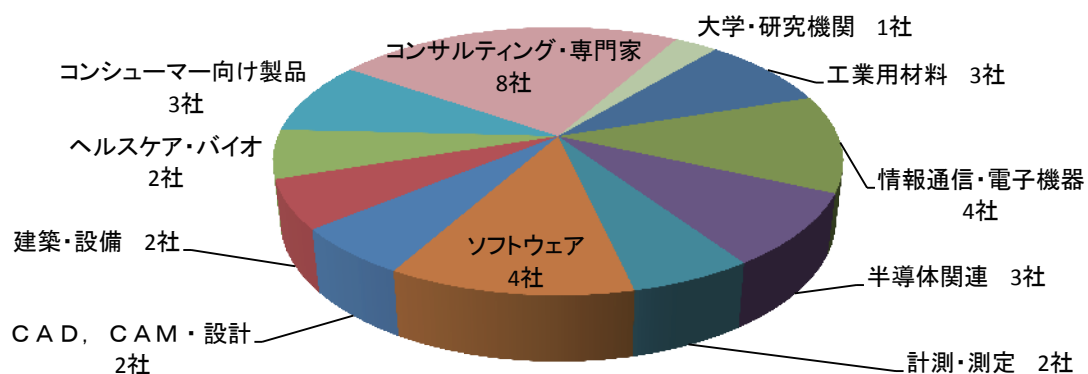


1-1

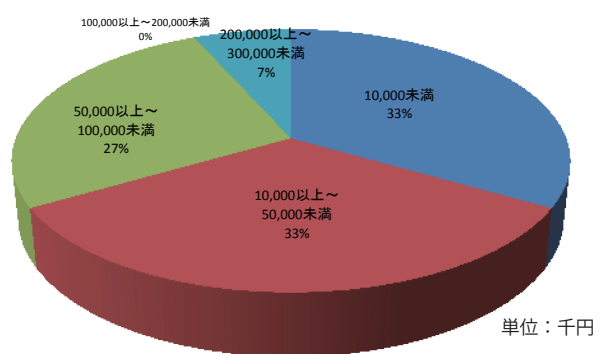
SIC-1

入居企業データ（23 年度）

業種

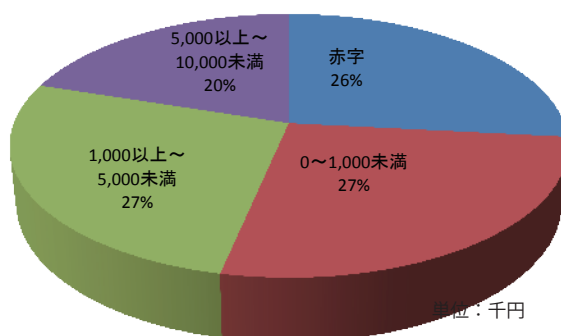


売上高

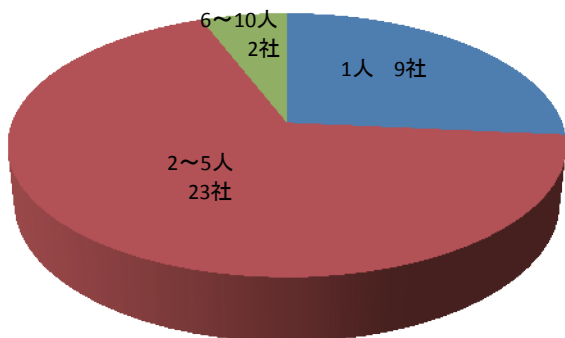


平成 23 年度 SIC-1 売上高合計
673,760 千円

最終利益（税引き後利益）

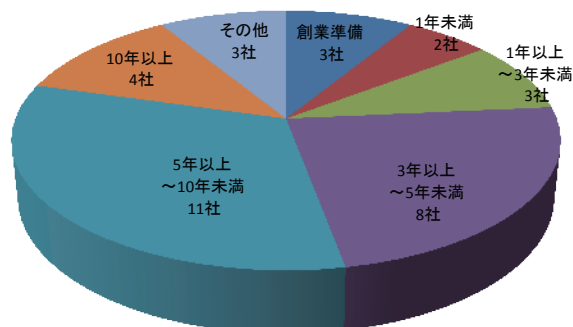


雇用



平成 23 年度 SIC-1 雇用者合計
34 社 92 人

創業年数



1-2

S I C - 2 (ポストインキュベーションセンター)

入居対象

<企業>

- ・創業期を経てさらなる規模拡大を目指す企業
- ・新分野進出によりさらなる規模拡大を目指す企業
- ・優れた技術・サービスを保有し、株式公開を目指す企業
- ・企業の研究開発部門

<産学連携企業等>

- ・産学連携による事業化を目指し、共同研究開発を行おうとするグループ、企業、研究者等
- ・大学発の技術を活用し、事業化を目指すグループ、企業、研究者等
- ・大学研究室

入居期間

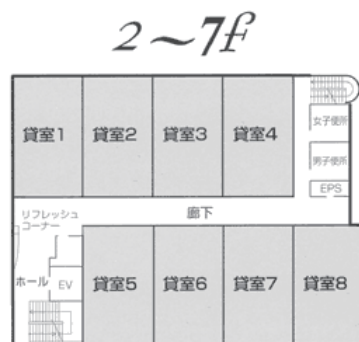
期間制限なし (3年ごとの再契約)

施設概要

	セミラボ	セミラボ	オフィス
設置階	1 階	2 ～ 4 階	5 ～ 7 階
部屋数	2 室	24 室	24 室
床面積	50.2m ²	50.2m ²	50.2m ²

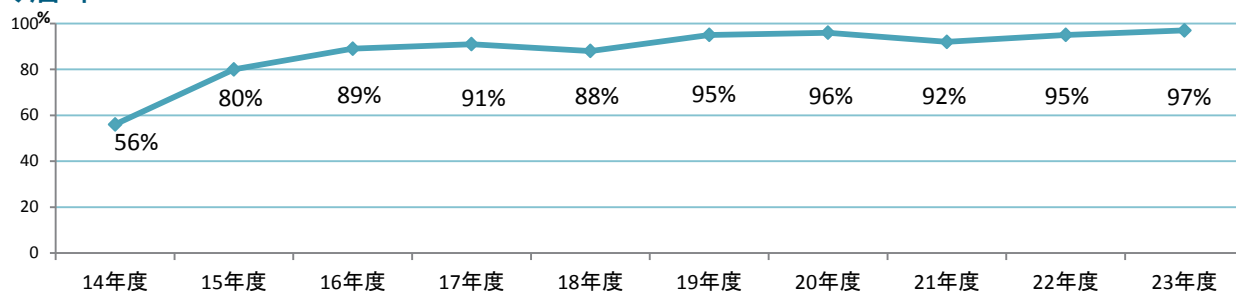


1 階平面図



2 ～ 7 階平面図

入居率

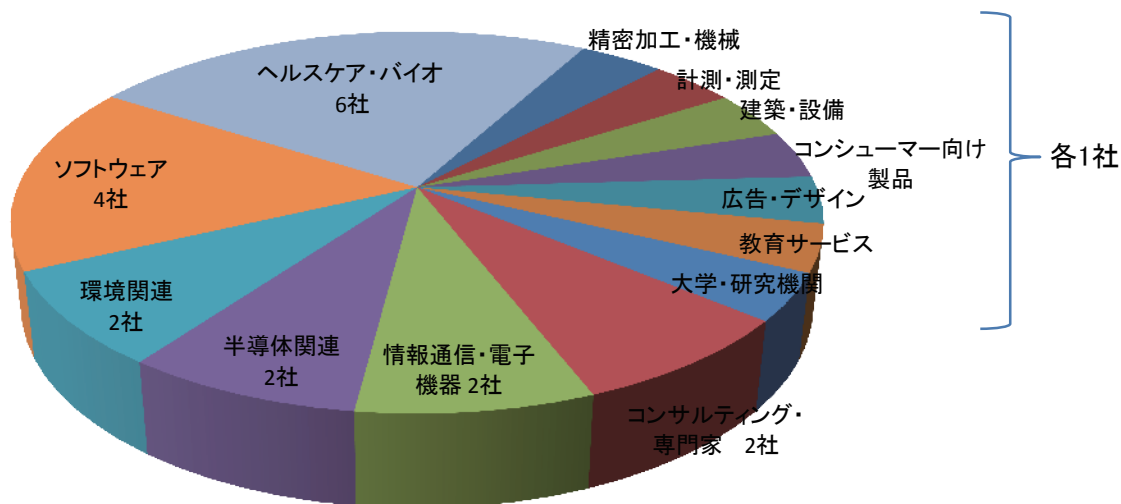


1-2

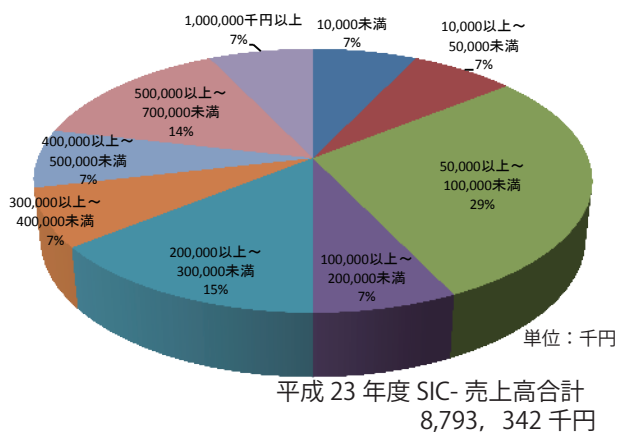
SIC-2

入居企業データ（23年度）

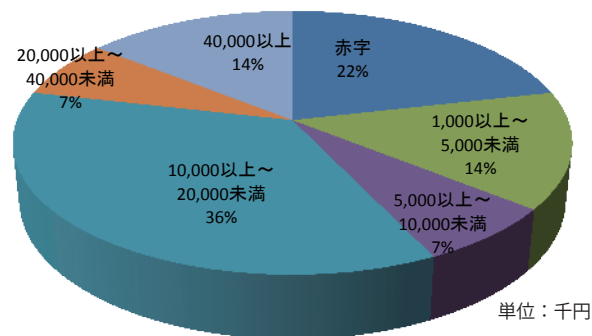
業種



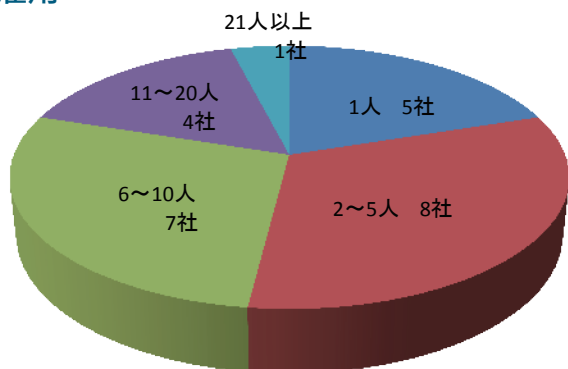
売上高



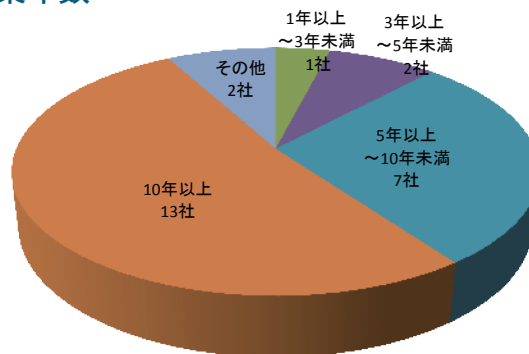
最終利益（税引き後利益）



雇用



創業年数



平成 23 年度 SIC-2 雇用者合計
25 社 188 人

1-3

S I C - 3 (イノベーションラボ)

入居対象

<起業>

- ・インキュベーション施設での創業期を経て、更なる規模拡大を目指す企業
- ・独創的な技術により、更なる規模拡大を目指す地域の中小起業

<産学連携企業等>

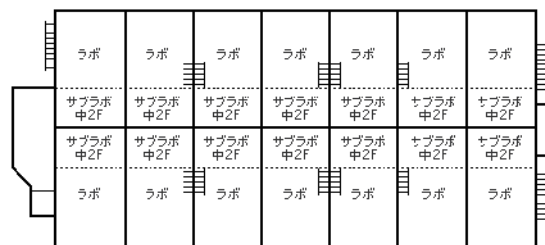
- ・大学や企業間の連携による事業化を目指して共同研究開発を行うグループ

入居期間

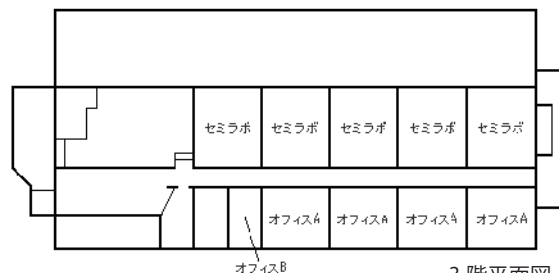
5年間（再契約可能）

施設概要

	ラボ		セミラボA	セミラボB	オフィスA	オフィスB
設置階	1階	2階	3階	3階	3階	3階
部屋数	14室		3室	4室	4室	4室
床面積	84m ²	28m ²	56m ²	28m ²	42m ²	21m ²

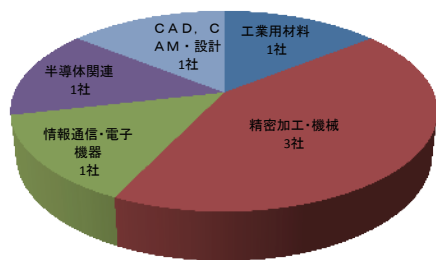


1階, 2階平面図

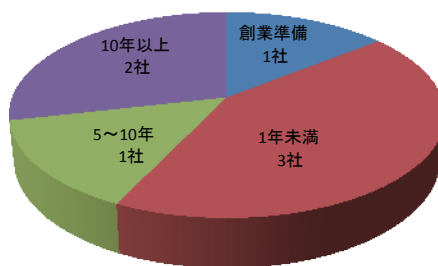


3階平面図

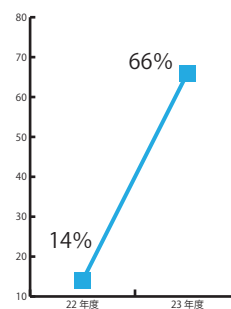
業種



創業年数



入居率



1-4

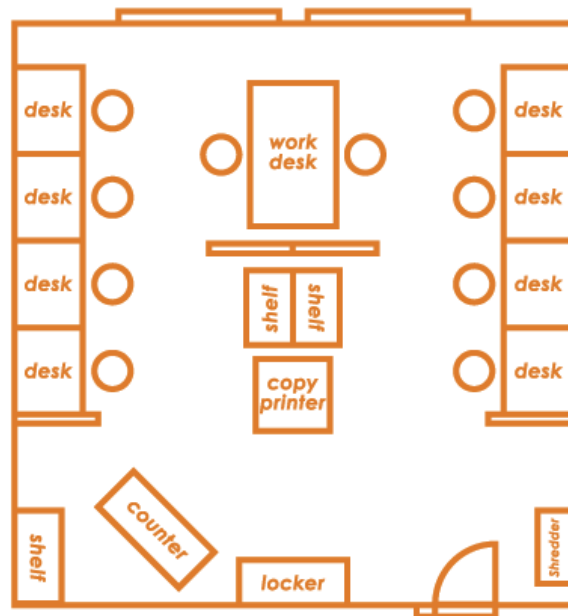
desk ⑩ (インキュベーション型シェアードオフィス)

desk⑩とは

Desk10 (デスクテン) はビジネスに必要な機能を他の会員とシェアすることでオフィスがリーズナブルに利用できるいわゆる「レンタルオフィス」型サービスです。事務機器や会議室なども利用できて、住所使用も可能。しかも、サービスを提供するのは10年にわたりインキュベーション施設を運営しているSICで、経験豊富なインキュベーションマネージャーも常駐しています。

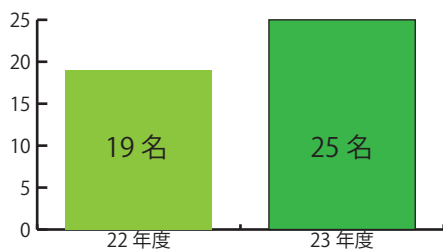
各種サービス

デスク (フリーアドレス)
ワークスペース
オフィス機器
住所使用
専用ロッカー
打ち合わせ・商談スペース
リフレッシュルーム
貸し会議室
秘書電話代行サービス



オフィス平面図

入居者数



2-1

経営サポート

企業支援

事業の目的

入居企業や地域企業の創業・新分野進出などの意欲的な事業展開における様々な経営課題を解決する。

▶ 経営課題支援の内容

対 象：入居企業・地域企業

支援手法：インキュベーションマネージャー（社員）がメンター、アドバイザー、専門家等と連携した支援

協力機関：神奈川産業振興センター、八千代銀行

支援契約数：業務委託契約 14 社、顧問契約 5 社

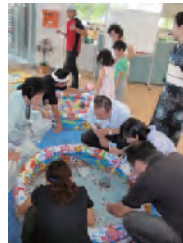
＊入居者に対しては、個別具体的な下記支援の他に、情報提供・相談対応・広報紙掲載・市施策説明会・交流会によるネットワーク形成、展示会共同出展などを行っている。

＊施設・事業の視察受け入れや、支援内容の向上を図るために他インキュベーション施設・産業支援機関との情報交換なども行っている。

▶ 入居企業に対する支援

企業の成長段階に応じた支援

- ・ 事業計画の策定
- ・ 資金調達
- ・ 人材確保
- ・ マーケティング、販路開拓など



▶ 地域企業に対する支援

新分野進出・製品開発での支援

- ・ カイゼン活動
- ・ 人材育成（新人研修）
- ・ 知的財産出願
- ・ ロゴマーク・WEB サイト制作など



2-2

経営サポート

相模原市中小企業新分野進出等支援事業

事業の目的

SIC スタッフと外部の専門家が協同して、新たな事業の開発や新分野への進出等を考えている企業を支援し、企業が抱える課題の解決と成長をサポートする。

▶ 支援対象者

- ・相模原市内の法人（法人化予定を含む）である、ものづくり企業（製造業または情報通信業）
- ・新規性、独創性があり、高い成長力を期待できる事業に積極的に取り組もうと考えている企業
- ・その他 SIC が認めた企業様

▶ 顧客の声

- ・今まで、目の前の仕事に精一杯取り組んできて、なかなか現状を分析したり、将来をじっくり考える時間をもてませんでした。今回の支援を受けて、経営者として、さらに一歩俯瞰してみる目を持つ重要性を再認識しました。
- ・当社にとって、エンドユーザーへの商品販売は初めての試みでした。事業計画策定段階から相談に乗っていただき、客観的な視点でビジネスモデルを考えることができました。
- ・特に経営におけるアドバイス、申請業務、協力会社の選定や紹介など、強力で推進して頂き新規事業の方向性を見失うことなく開発日程を守る事が出来ました。今回の支援により基盤が整い、より効率的な開発が可能となりました。
- ・実際に外部の目から事業の棚卸や業界の分析などをまとめて頂いた事で、今まで気が付かなかった様々な課題を改めて認識する事が出来ました。また、ご紹介頂いたパートナー見込み企業へ実際に一緒に訪問もして頂けたので単独での対応と比べ相手の本音が聞けたり、提案自体がスムーズに出来たのではと思います。

▶ 活動内容

さがみはら企業力支援事業

地域企業の新分野支援を個別に支援

支援期間：平成23年9月1日～平成24年3月31日

支援企業数：全9社

見にミニセミナー（経営相談会）

企業【力】のヒントとなる身近なセミナーと個別の相談会を実施

開催日：①平成23年10月13日（青山学院大学相模原キャンパス内にて）

②平成24年3月13日（SIC 内、大会議室にて）

支援内容例

- F 社：マッチング・既存事業の取引深耕
- W 社：新規事業展開で経営革新計画活用
- E 社：マッチング・マーケットリサーチ
- K 社：海外への販路拡大に向けた人材育成
- O 社：海外展開へ向けた事業計画

2-3

技術開発

SIC 燃料電池研究会

事業の目的

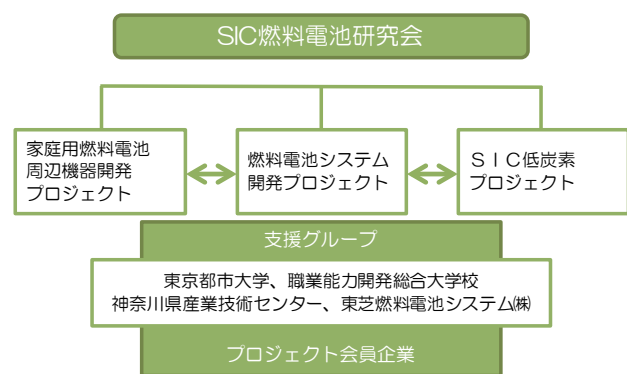
企業・大学・公的研究機関を含む産学官連携や企業間連携体を構築し、技術開発の促進のための協力体制ならびに公的補助金等の導入に向けたコンソーシアム形成をはかり、燃料電池及び新エネルギー関連分野に係わる基盤技術の確立に向けた先導的プロジェクトの推進を目指す。SICの資源を活用して研究開発成果の事業展開に向けたプロモーションを推進し、展示会などへの出展や情報発信を行うことで、ビジネスチャンスの発掘と事業の拡大をはかる。

研究会の主旨

低炭素社会構築に向けた次世代リーディング産業の創出支援の仕組み「SIC 燃料電池研究会」において、燃料電池システムや新エネルギー分野の周辺機器、部品の低コスト化や耐久性の向上、低電力化、ダウンサイズ化を目的とした産学官の共同開発支援を平成17年より推進している。

大手・中小・ベンチャー企業を問わず、自らの得意技術を提供可能、またはチャレンジ精神旺盛な方々に対し当研究会における活動を推進している。

研究会の構成



事業概要

1. 家庭用燃料電池周辺機器開発プロジェクト
 - ・家庭用燃料電池『エネファーム』周辺機器開発やその他エネルギー・システムメーカーへのスペックイン
2. 燃料電池システム開発プロジェクト
 - ・～500W クラスの研究会独自の燃料電池開発
 - ・高効率燃料（水素）供給システムの開発
3. SIC低炭素プロジェクト
 - ・H21 経済産業省低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業の応用研究

23年度の成果

会員数：民間企業16社（40名）2大学 1公設試が参画
プロジェクト成果：

- ・電動アシスト用燃料電池システム試作機
- ・災害用飲料水供給システム検討用試作機
- ・太陽光追尾式発電システム（小型水素ステーション化）の試作
- ・新エネ技術習得講座の開催（参加者10名）
- ・2012国際水素燃料電池展への出展



2-4

技術開発

さがみはら表面技術研究所

事業の目的

地域企業と大学・研究機関の連携・交流機能を整備・運用し、企業の技術的な強みを活かした事業開発に貢献し、産業の発展に寄与することを目的とする。

受託事業

戦略的基盤技術高度化支援事業

相模原市新技術実用化コンソーシアム形成支援事業

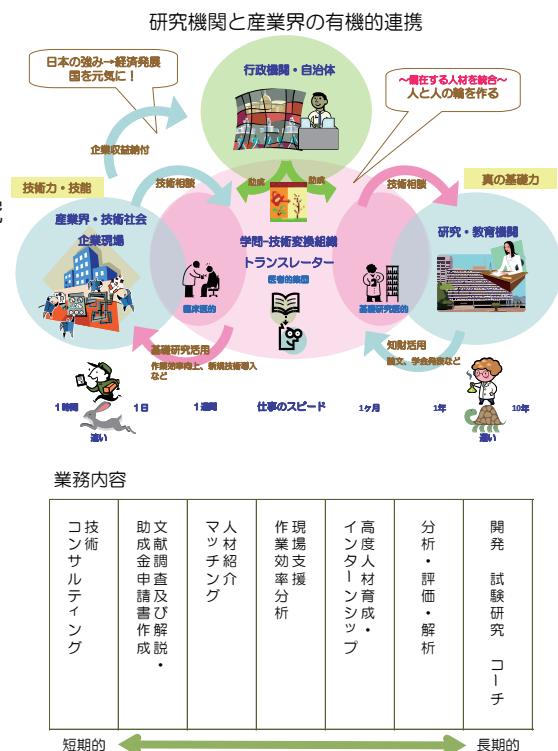
高度研究人材高度化支援事業

事業概要

1. 分析・評価サポートサービス
神奈川県産業技術センター、神奈川科学技術アカデミーなどの高度な分析機器を活用した製品、材料の特徴の分析、評価
2. 大学研究機関の紹介
研究、製品開発や不具合原因解析などの技術課題の相談と研究者等のコーディネート
3. 公的助成・委託事業の申請サポート
申請書作成のサポート、コンソーシアム形成のコーディネート（相模原市新技術実用化コンソーシアム形成支援事業採択）
4. 研究開発の実施
共同研究開発等のコーディネート（戦略的基盤技術高度化支援事業採択）

活動成果

- ・公的助成・委託取得のための申請書作成の支援
- ・技術コンサルティングおよびアドバイス
- ・分析・解析を通じた研究開発の支援
- ・地域企業・大学・公設試とのコンソーシアム形成
- ・企業の研究開発の支援
- ・成膜シミュレーションソフトの性能評価および基礎研究
- ・企業の新規事業における基礎的計算データの提供
- ・技術交流会の実施
- ・表面技術フォーラムの開催
- ・企業との共同研究のマネジメント・研究計画作成
- ・技術系人材採用におけるコーディネート
- ・民間分析会社とのネットワーク構築
- ・企業宣伝用媒体の英訳
- ・専門技術、情報収集のための各種セミナー等参加
- ・大学主催の産学連携シンポジウム参加
- ・各種展示会参加



2-5

技術開発

首都圏南西地域サポート事業

事業の目的

- ・相模原市を中心とした神奈川県県央地域及び町田市、八王子市（首都圏南西地域）において、産学官連携により、新事業創出や技術の高度化を図り、地域経済の活性化を目指す。

参加者数

第 20 回南西フォーラム	135 名
第 21 回南西フォーラム	122 名
第 22 回南西フォーラム	82 名
計	339 名

顧客の声

- ・省エネのための様々な手法を学ぶことが出来た。
- ・相模原でこのようなフォーラムが行われることに意義を感じた。色々なフォーラムを希望する。
- ・再生エネルギーの一端が分かった。

顧客満足度評価

	参考に なった	参考に ならなかった	どちらとも いえない
第 20 回	49 名	2 名	5 名
第 21 回	33 名	0 名	5 名
第 22 回	28 名	0 名	2 名



事業概要

- ・産学・産産マッチングを推進することを目的に、時流に即したテーマを選定し、南西フォーラムを年間 3 回開催。
- ・南西フォーラムから派生した技術課題を解決するために、分科会による活動を行うとともに、組成に向けた調査活動を実施。主な分科会：難切削材加工研究会・地域資源活用研究会
- ・南西フォーラムのホームページを管理運営し、また、南西フォーラムニュースとして南西地域の企業や団体の事業やイベントのPRを行う。

	開 催 日	内 容
第 20 回 南西フォーラム	平成 23 年 5 月 24 日	この夏を乗り切れ！地域で取り組む節電対策 (節電方針・対応策・取組事例など)
第 21 回 南西フォーラム	平成 23 年 11 月 2 日	再生可能エネルギー 関連技術の最新動向！ (再生エネルギー動向、大学等研究者発表)
第 22 回 南西フォーラム	平成 23 年 12 月 13 日	再生可能エネルギー 関連ビジネス (再生エネルギー関連企業の事業発表)



2-6

技術開発

SIC 協創プロジェクト

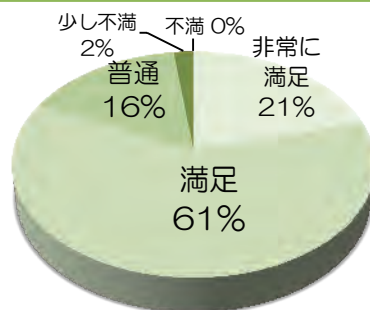
事業の目的

『既成の地域の中小企業発展の為に必要となるのが、安定的な収益確保であるという考えを発起とし、業種や環境の異なる「企業と企業」「人と人」「技術と技術」の新たな出会いを模索しながら、単独では難しい新分野進出、新製品の開発に企業連携で取り組む事を目的とする。』

交流会・懇親会参加者数

参加者 82 名 参加企業 61 社

満足度評価



顧客の声

- ・実際のプロジェクトの紹介もあり、具体的な指針が分かりやすかった。
- ・相模原の近くに「こんな会社が」というのを知る事が出来た。
- ・興味のある取組みがあった。
- ・日本のものづくりの中小零細の可能性を感じる事が出来た。
- ・ビジネスチャンスがたくさんある場だと感じた。
- ・新しい出会いがあって良かった。
- ・特色がある企業が多数参加されていた。

交流会から発足したワーキンググループ（以下WG）の年間活動概要

開催日 平成 23 年 9 月 7 日

内 容 交流会・懇親会開催

概 要 近隣企業との交流を深めることにより、企業間連携での新たなプロジェクト発足を目指す。

「水」WG開催概要

交流会後 3 月までに 4 回の WG 会議開催

水再利用、殺菌、消臭

既存の技術を生かした自然エネルギーの活用方法

殺菌水の機能水としての利用価値

水耕栽培での菌のコントロール方法とにのびの問題に関する市場性



「汚泥」WG開催概要

交流会後 3 月までに 5 回の WG 会議開催

汚泥処理、油水分離

マイクロ水力発電とバイオマス発電の可能性

バイオマス発電のビジネスモデル化の提案

バイオマス発電におけるシステムフローと収益性及び採算性に関する課題の情報共有



「LED光」WG開催概要

交流会後 3 月までに 9 回の WG 会議開催

LEDの近赤外線を用いた暖房の実験

光を使ったセキュリティ関連商品の開発を模索

双方向型映像中継装置の開発を模索



2-7

技術開発

バイオベンチャー人材活用事業

事業の目的

- ・ 中小・ベンチャー企業の人材不足対策と、連携による研究開発の促進を図るため、バイオ関連の事業化プロジェクトを支援し、早期事業化によるバイオ分野の産業振興と雇用創出に取り組むもの。
- ・ バイオベンチャーを含む県内企業等の3団体以上が連携した、新規に雇用を生み出すことが可能なプロジェクトを公募し、外部選考委員による審査を経て、平成23年度を限度として事業化に向けた支援を実施する。



内容

神奈川県内5プロジェクト採択中、当社では提案プロジェクトを推進した。

1. プロジェクト名：
ヒトのアレルギー疾患克服のための新しいIgE定量検査システム事業
2. プロジェクトメンバー：
株式会社さがみはら産業創造センター
動物アレルギー検査株式会社
麻布大学
日本全薬工業株式会社
3. プロジェクトリーダー：
動物アレルギー検査株式会社 代表取締役 増田 健一
4. 事業期間：
平成22年度～23年度



神奈川県採択プロジェクト

- ・ siRNAを用いた放射線治療増感剤の開発
- ・ ProteinKinase阻害活性を有する抗癌剤候補化合物の探索・創製プロジェクト
(PK阻害剤探索プロジェクト)
- ・ ヤトロファの利活用性向上に関する研究
- ・ マイクロインラインリアクターを用いた自己組織化を原理とする革新的リポゾームの無菌連続製造装置の開発とその用途探索

2-8

人材育成

SIC 経営塾

事業の目的

先端的なケーススタディを通じ、経営の理論と実践を学び、塾生自らが、事業構想を再構築，することにより、「真の経営力」を養成することを最終目的としています。

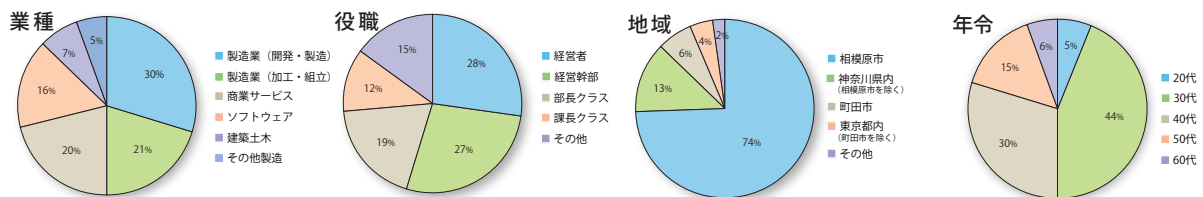
▶ 受講生

- ・2011 経営塾：12 名受講
- ・これまで、約 100 名が受講。2 代目、経営幹部の受講生が多い。
- ・昨年度は塾生・関係者を集め、10 周年の会を開催し、横のつながりを構築。

▶ 顧客の声

- ・N社Y氏：仕事への思いを明文化する大切さを痛感し、現在に至っております。
- ・H社S氏：SIC 経営塾に参加してそれまで作成していた経営指針が事業計画へラッシュアップできました。4 年たった今でもお互いの近況を報告できる仲間に出会えたことにも感謝です。
- ・Y社K氏：二代目の私にとって、経営の勉強をする必要性や責任を痛感して参加しました。初めは重荷でしたが、回を重ねる毎に楽しみへと変化し、他の塾生との出会いは期待以上でした。

▶ 過去 10 年間の受講生のデータ



▶ 活動内容

先端的な企業のケーススタディを通じ、経営の理論と実践を学び、塾生自らが、事業構想を再構築することにより、「真の経営力」を養成することを最終目的としています。

講義

最先端の経営理論を学びます。

- 先端企業経営者の実体験や様々な先進的な取り組み事例を通して最新の経営理論と実例を学び、自社の課題に置き換えて検証します。

討論

塾生、コーディネータとの討議を重視します。

- 課題図書、事例研究を基に、異業種の方々と討論が自社を見つめ直し、自社の事業構想を構築する良い機会となるでしょう。

事業構想の再構築

最終ゴールは自社の事業構想の再構築です。

- 実証的な研究や討論を通し、自社を客観的に見つめ直し事業構想を策定し、自社における「NEXT STAGE」を考えます。

■ 講義概要：

全10回・11日間で約9ヶ月かけて行います。

回	課題シート・講義内容
1	オリエンテーション
2	わが社の経営の現状を語る（1泊2日合宿）
3	現状を分析する
4	存在意義を問う
5	コアコンピタンスを定義する
6	戦略シナリオを考える
7	財務構造を改善する
8	組織文化の変革を仕掛ける
9	事業構想を打ち出す
10	わが社の経営の将来を語る（自社の事業構想の発表）



塾の5つの約束

- 1 情報発信と情報受信（話し合いと聞き合い）
- 2 自由にものが言える場づくり
- 3 自らの考えを文章・図に落とす
- 4 実践への展開
- 5 守秘義務

2-9

人材育成

SIC 職場リーダー養成塾

事業の目的

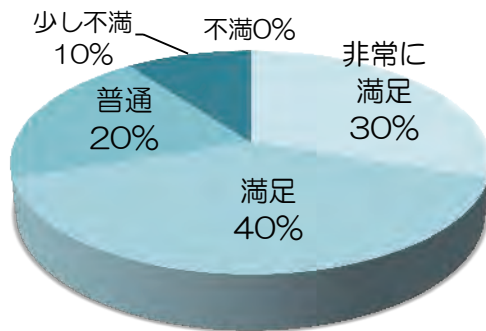
様々なリーダー達との他流試合を通じてコミュニケーション力と課題解決力を養う。

- ・自分で考え、行動する力を習得する。
- ・身近な課題を解決し、自信を持つ。
- ・若手リーダー間の人脈をつくる

▶ 受講生

定員 16 名 参加者 18 名

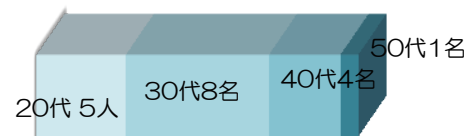
▶ 顧客満足度評価



▶ 顧客の声

- ・異業種、異業界の若手リーダーとのネットワークができた。
- ・課題を解決する際の手法を学ぶことができた。
- ・部下の話を聞くことの大切さを気づくことができた。
- ・毎回の宿題が大変だった。
- ・2週間に1回のため、宿題が中途半端になってしまった。

▶ 受講生の年齢構成



▶ カリキュラム

	開催日	内容
1	平成 24 年 6 月 29 日	オリエンテーション
2	平成 24 年 6 月 30 日	職場のコミュニケーション①(コーチングトレーニング)
3	平成 24 年 7 月 18 日	目指すリーダー像を明確にする
4	平成 24 年 8 月 7 日	職場の課題を抽出する
5	平成 24 年 8 月 21 日	職場の課題解決①(課題・目標設定)
6	平成 24 年 9 月 4 日	職場の課題解決②(対策検討)
7	平成 24 年 9 月 19 日	職場のコミュニケーション②(モチベーション向上)
8	平成 24 年 9 月下旬～11月下旬	課題解決に向けた対策を実践
9	平成 24 年 12 月 7 日	成果発表会 ※ 受講生の企業から 11 名の経営者が参加



2-10

人材育成

SIC 地域産業界の人づくり支援事業

事業の目的

- ・企業訪問調査事業
企業の経営課題や人材育成などの現況や課題を把握
- ・企業診断事業
経営課題を抽出し改善の方向性を示すことで、企業の継続的な成長を目指す。
- ・企業PR事業
中小企業の円滑な人材採用をも目標に、PR活動の支援をする。



参加者の声

- ・中小企業の多さとたくさんの優良企業があるという話にも興味を持て、これから就職活動をするにあたって、どういった企業を選べばいいのかポイントが分かった。
- ・大企業だけに的を絞った就職活動は浅はかであると感じたので、広い視野で就職活動をしていきたいと思います。
- ・今まで、中小企業というとマイナスなイメージの方が強かったが、「自分の考えを伝えることができる」「ネットワークがあるから人間的に成長できる」「チャレンジ・自己表現ができる」といった利点など、中小企業に対する考えが変わった。



事業概要

企業訪問調査

調査期間：平成24年3月2日

訪問企業：相模原市内ー212社 市外ー94社

ヒアリング内容：①企業概要 ②経営状況 ③人材に関する取り組み状況と課題

④新規事業開拓・新製品開発・海外展開に関する取り組み状況と課題

課題：地域企業が自立的な課題解決に取り組める施策を提示することが必要である。



企業診断

診断期間：平成23年9月27日～平成24年3月22日

診断企業：9社（診断に興味がある企業は、全体の16%）

企業診断内容：①環境分析 ②将来ビジョンの明確化 ③経営課題抽出と優先順位付け ④個別支援

実施企業：・今後向かうべき方向性が整理できた

経営者所感：・今後の自社の発展にとって有益である

企業PR 学生及び学校の就職担当者に中小企業の魅力を知ってもらう取組み

【法政大学中小企業調査支援】

「政策研究実習」として企業を調査。企業の実態を知ってもらう事を通じて、学生への企業PRを目的とした。

【学校就職担当者企業訪問バスツアー】

学校関係者が中小企業の概要、経営環境、技術、ビジョン、労働環境の理解を深め、企業と学生の接点となって中小企業の魅力を多くの学生に広げてもらうことを目的とする。

【神奈川大学経営学特殊講義における講演】

中小企業の社員による「中小企業で働く」ことに関する講義。働き方の多様性をアピール。



2-11

人材育成

さがみはら子どもアントレプレナー体験事業

事業の目的

1. 会社や経済の仕組みを知る
2. 失敗を恐れずに挑戦できる心を養う
3. 自分の考えで行動できる力を養う
4. チームワークの大切さを知る
5. お金の大切さを実感する

▶ 参加者数

子ども 42名 ジュニア 20名

▶ 満足度評価

仕事に対する意識が変わった	82%
将来自分で会社を作りたいと思うか	41%
お金に対するイメージが変わった	76%
次回も参加したいか	94%

▶ 参加者の声

- ・仕事には、きちんと役割が決まっていた難しい。
- ・みんなをまとめる事を学んだので、会社を自分で作ってみたい。
- ・仕事がこんなに大変だったから、お小遣いをもっと大切にしようと思った。
- ・このような体験が出来る事はあまりないから、また参加してみたい。
- ・自分の意見をちゃんとと言える所が良かった。
- ・チームワークの大切さを知る事が出来た。

▶ 事業概要

さがみはら子どもアントレプレナー体験事業は、小学生を対象にした「子どもアントレ体験キャンプ」と、高校生を対象とした「ジュニアアントレ」があり、初めて出会う仲間と起業や会社経営のプロセスを疑似体験するものです。

		開催日	内容
ジュニアアントレ	1日目	平成23年8月5日	・オリエンテーション ・経営者講演 ・製造体験
	2日目	平成23年8月6日	・役職・製造方法決定 ・会社設立 ・商品企画、発表
	3日目	平成23年8月8日	・販売場所決定 ・事業計画書作成 ・融資交渉
	4日目	平成23年8月10日	・商品製造
	5日目	平成23年8月11日	・販売 ・決算 ・振り返り ・報告会 ・修了式
子どもアントレ	1日目	平成23年8月17日	・会社設立 ・商品決定 ・マーケティング講義
	2日目	平成23年8月19日	・事業計画書作成 ・融資交渉
	3日目	平成23年8月20日	・材料仕入れ ・商品製造
	4日目	平成23年8月21日	・販売 ・決算 ・返済 ・振り返り ・修了式



2-12

人材育成

SIC アントレ・インターンシップ

事業の目的

『既成の固定概念に捉われることなく、新たな領域に、自ら考え出したアイデアで、失敗を恐れずに挑戦する気概に溢れた人材』とは何かを理解するとともに、実社会において、社会人として、人としてどうあるべきかを学ぶことを目的とする。

参加者数

7名 累計86名（平成16年から）

インターンシップ参加者の声

- ・思った以上にハードだったが、自分の意見を主張する力、友達など、いつの間にかたくさんの事を得られる場所。
- ・目の前の事に全力で取り組み、一日一日があっという間に過ぎていった。こんなに集中できる機会は 本当に貴重だと思う。
- ・仕事に対する意識の変化や責任感を感じられるようになり、自分の将来に繋がられるものがこのインターンシップにはあった。
- ・自分を見つめ直すことが出来た。
- ・大学との両立は大変だったが、多くの事を学べて、「やって良かった!」と思えるインターンシップでした。
- ・大変だったが、素晴らしい仲間に出会い充実した時間を過ごす事が出来ました。
- ・このインターンシップを通して、自主性がいかに大切か考える事が出来ました。会社に入ると自ら考え行動しなくてはならないと気付くことが出来ました。

事業概要

『一足先に社会人』を経験してもらうために、毎年8月に開催される「子どもアントレ」「ジュニアアントレ」の企画運営を大学生が中心となって行うものです。

	開催日	内容	概要
1	平成23年5月22日	キックオフ	ビジネスで重要な「報連相」「挨拶」「礼儀」などについて学ぶ
2	平成23年5月29日	コミュニケーション研修	仕事の成否に直結する良好なコミュニケーションの取り方について学ぶ
3	平成23年6月～8月	企画・準備	「子どもアントレ」「ジュニアアントレ」に参加する子どもたちに最高のサービスを提供する為に悪戦苦闘しながら企画、準備を行う
4	平成23年6月26日	コーチング研修	「子ども達の考えや思いの引き出し方」について学ぶ
5	平成23年8月5日、6日、8日、10日、11日	ジュニアアントレ（高校生対象）	高校生に会社経営の疑似体験プログラムを提供する
6	平成23年8月17日、19日～21日	子どもアントレ（小学生対象）	小学生に会社経営の疑似体験プログラムを提供する
7	平成23年10月7日	アントレ実施結果報告修了式	アントレの実施結果と次年度への提言について主催者に報告



2-13

資金調達

SIC1 号投資事業有限責任組合

事業の目的

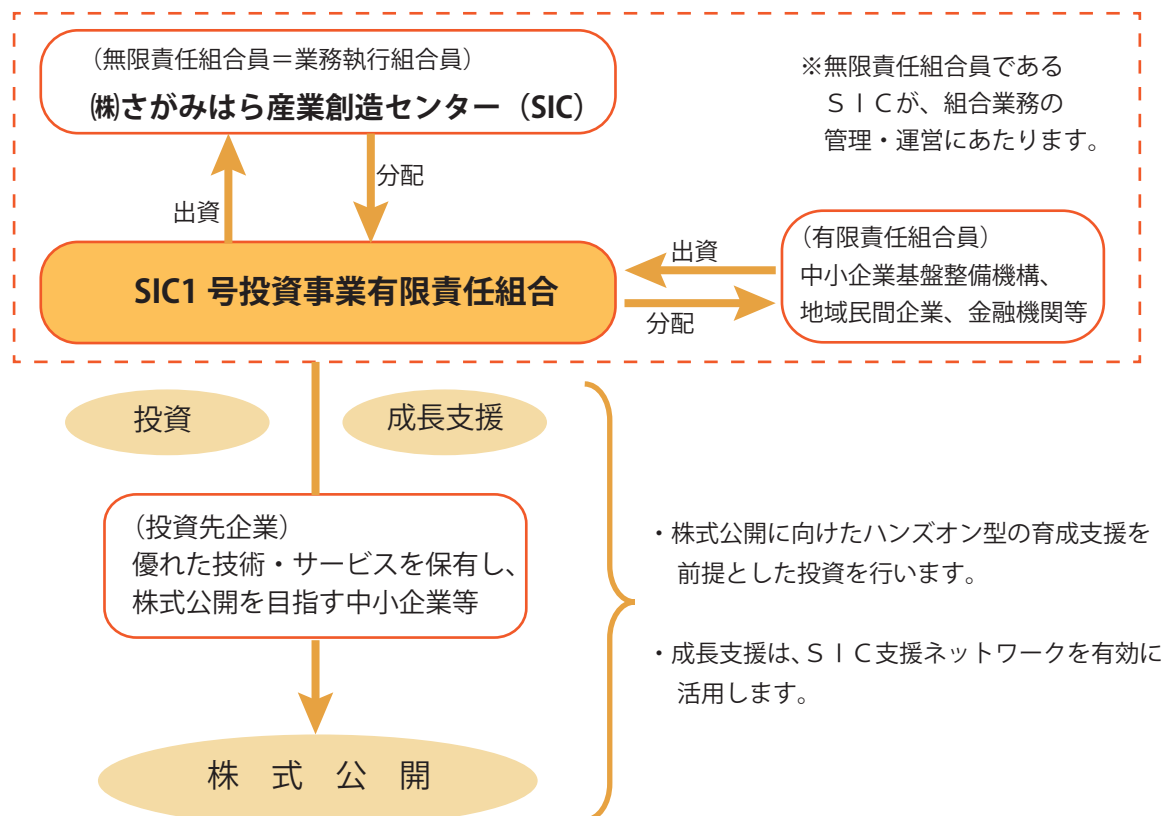
- ・金融支援サービス機能を保有することによるハンズオン型企業成長支援の確立
- ・キャピタルゲイン等成功報酬の獲得によるS I C財務基盤の確立

▶ 投資先企業

地域		設立年月	
東京都	7 社	設立 7 年未満	11 社
神奈川県	4 社	そ の 他	0 社
計	11 社	計	11 社

▶ 内容

- ・平成 17 年 11 月に 5 億円のファンドを組成
- ・現時点までに設立 7 年未満のアーリーステージの企業 11 社に 344 百万円を投資実行
- ・ファンドの満期（平成 27 年 10 月）を見据えて、投資先企業の成長支援を継続するとともに、出口戦略を明確にし、投資回収に向けた交渉を行う。



2-14

販路開拓

台湾ビジネスサポート事業（海外販路開拓支援事業）

事業の目的

円高傾向や国内市場の縮小を乗り越えて地域企業が持続的に発展するために海外展開をサポートする。特に、中国への足掛かりを有し、市場の成長性、電子業界の集積度、生産技術力が高く、SICがネットワークを有する「台湾」に着目し実施する。

▶ 台湾ビジネスマッチング参加企業・面談数等

	参加 企業数	プレゼン 参加者数	面談数
第1回	10社	120名	72件
第2回	4社	80名	43件
計	14社	200名	115件



▶ 顧客の声

- ・商談を継続する中で、当社の強みを見つめ直し、新たな着想を得ることができた。
- ・現地企業との間で具体的な提携へ向けての協議が進み始めている。
- ・日本とは違う海外の風や空気感を知らることができ、当社の経営スタイル・方針が変わったことが最大の成果、受注も獲得した。
- ・台湾の市場を知るための人脈を築くことができ、現地の人の考え方や生活様式を知る機会となった。
- ・経営トップ自らが足を運んで即断即決すること、反面、焦らず腰を据えて取り組むことの重要性を認識した。
- ・台湾企業の意思決定の素早さ、ニーズが明確なことなどを理解した。百聞は一見にしかず。

▶ 事業概要

日 付	内 容
平成23年2月28日～3月3日	第1回台湾ビジネスマッチング 台湾（新竹・台北・台南）
平成23年7月19日	工業技術研究院（ITRI）と業務提携 台湾（新竹）
平成23年11月22日	SIC台北商務中心（ビジネスセンター）開設
平成23年11月22日～25日	第2回台湾ビジネスマッチング 台湾（台北、新竹）
平成24年2月14日	T-BISCビジネスマッチング 東京（機械振興会館） ITRIによる台湾企業支援紹介、台湾企業2社が商談参加 （中小企業基盤整備機構と共催）



2-15

ソーシャルビジネス創育支援事業

事業の目的

相模原市の地域資源（農林業、健康、環境など）を活かし、社会性のある事業の創出及び育成を行い、地域の産業活性化を図る。

▶ 雇用促進

新規雇用者数 24人

▶ 事業概要

相模原の地域資源を活用した活動の事業化支援

1. 地域資源発信プロジェクト室の設置、運営

(1) 青根地域の地域拠点の事業化支援

青根草木館、癒しの湯などのイベント支援、アイテム支援など

(2) 長竹地域の特産品（ブルーベリー）の生産、販売、事業化支援

東京家政学院大学との連携による販売アイテム（レシピ）の開発

(3) 農産物の直売所設置支援

鳥居原ふれあいの館の店舗支援、利用実態調査、店舗コンサルティングなど



2. 企業向けメンタルヘルス対策の事業化

桜美林大学との連携でヘルスサイコロジー研究所を設置・運営

- ・学術研究に基づいたメンタルヘルス対策プログラム開発
- ・企業の職場環境分析のWEB調査システムの開発
- ・ワークを取り込んだメンタルセミナーの実施

健康度アセスメント

- ・健康実証研究心理学の理論とに基づく科学的手法
- ・社員と会社の健康度を促進する要因、阻害する要因を解明
- ・さまざまな統計的手法を用いた明確な分析
- ・視覚化された見やすい報告書と専門家によるプレゼンテーション

職場環境

会社の風土
職場の風潮
目標明確性
etc.

職務環境

作業負荷（量・質）
職務特性
仕事のコントロール感
etc.

健康度

精神的健康（うつ、不安）
身体的健康
職務満足感
etc.

周囲からのサポート

組織からのサポート
上司のサポート
同僚のサポート

3-1

さがみはら産業創造センターの歩み

1998 年度 (平成 10 年度)	検討会の提言…市内の若手経営者、相模原市などの若手スタッフによる検討会が相模原市にセンター整備を提言
1999 年度 (平成 11 年度)	会社設立…相模原市、相模原商工会議所及び新事業創出促進法に基き地域振興整備公団（現中小企業基盤整備機構）が出資し会社設立 増資…地元企業や地域金融機関などが出資 第 1 回女性起業家育成セミナー開催
2000 年度 (平成 12 年度)	S I C - 1（インキュベーションセンター）オープン 第 1 回ビジネスプランコンテスト開催
2001 年度 (平成 13 年度)	第 1 回さがみはら子どもアントレプレナー体験事業開催 増資…相模原市、地域振興整備公団（現中小企業基盤整備機構）、地元企業が出資
2002 年度 (平成 14 年度)	S I C - 2（ポストインキュベーションセンター）オープン 女子美術大学と「ヒューマンデザイン開発支援事業」に関する協定を締結、中小企業のデザインを支援するデザイン開発支援事業を開始 経済産業省から「即効型地域新生コンソーシアム事業」を受託 第 1 回「S I C 経営塾」開講
2003 年度 (平成 15 年度)	職業能力開発総合大学校と「地域企業活性化支援事業」に関する協定を締結 八千代銀行と「起業家支援事業」に関する協定を締結 地域企業 450 社の実態調査を実施
2004 年度 (平成 16 年度)	神奈川工科大学と「産学連携事業」に関する協定を締結 第 1 回「S I C アントレ・インターンシップ」開講
2005 年度 (平成 17 年度)	S I C 1 号投資事業有限責任組合（S I C ファンド）を組成 神奈川県から「新産業創出拠点形成促進事業」を受託 S I C 燃料電池研究会が発足 第 1 回 SIC 起業家塾開講
2006 年度 (平成 18 年度)	相模原市から「首都圏南西地域産業活性化フォーラム」の運営を受託
2007 年度 (平成 19 年度)	第 1 回職場リーダー塾開講 S P S 研究会が発足
2008 年度 (平成 20 年度)	(株)カイゼン・マイスターと業務提携し、地元企業向けのカイゼン支援を開始
2009 年度 (平成 21 年度)	さがみはら企業力支援事業を開始、併せてメンター（経営指南者）制度を創設 緊急雇用事業を相模原市から受託し、大規模な市内企業実態調査や産業界の人づくり支援事業などの人材育成に取り組む。 経済産業省から「低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業」を受託
2010 年度 (平成 22 年度)	さがみはら表面技術研究所オープン インキュベーション型シェアードオフィス「DESK⑩」オープン 第 1 回台湾ビジネスマッチングを開催
2011 年度 (平成 23 年度)	台湾工業技術研究院と連携協定を締結 S I C - 3（イノベーションラボ）オープン S I C 台湾ビジネスセンターオープン 経済産業省「戦略的基盤技術高度化支援事業」を受託 企業紹介冊子「おもしろ企業の魅力拝見！」出版 地域発信冊子「韮尾根のブルーベリー」発行

3-2

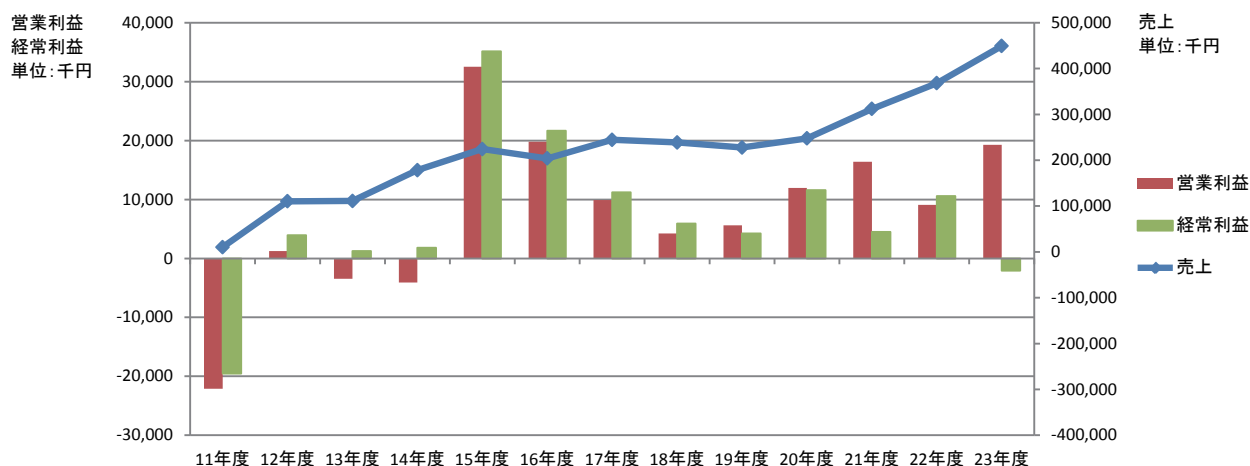
主な事業と開始年度（カテゴリー別）

年 度	ラボ・オフィス	経営サポート	技術開発	人材育成	資金調達	販路開拓
1999 年度 (平成 11 年度)		・ビジネスプランコンテスト	・新規成長産業連携 支援事業	・女性起業家育成 セミナー		
2000 年度 (平成 12 年度)	S I C - 1 オープン	・株式公開塾 ・入居企業セミナー	・中小企業のための技術 セミナー			
2001 年度 (平成 13 年度)			・ミニコンソーシアム事業	・さがみはら子どもアン トレプレナー体験事業 (小学生)		
2002 年度 (平成 14 年度)	S I C - 2 オープン	・アントレフォスター事業 ・中小企業のデザイン 開発支援	・経済産業省「即効型 地域新生コンソー シアム」受託	・SIC 経営塾 ・さがみはら子どもアン トレプレナー体験事業 (中高生)		・KSP ベンチャー マッチング商談会に 参画
2003 年度 (平成 15 年度)		・八千代起業家支援 プログラム ・地域企業実態調査 (450 社)	・大学シーズ調査	・SIC 経営者セミナー		
2004 年度 (平成 16 年度)		・さがみはら青年アントレ プレナープロデュース事業	・新技術創造研究会	・SIC アントレ・インターン		
2005 年度 (平成 17 年度)			・神奈川県「新産業 創出拠点形成促進 事業」を受託 ・燃料電池研究会発足	・SIC 起業家塾	・SIC1 号投資事業 有限責任組合組成	
2006 年度 (平成 18 年度)		・チャレンジショップ	・首都圏南西地域 産業活性化フォーラム	・SIC 起業家育成大学校	・入居企業 4 社、地域 企業 3 社に出資	
2007 年度 (平成 19 年度)			・SPS 研究会	・SIC 職場リーダー養成塾		
2008 年度 (平成 20 年度)		・中小企業のカイゼン 活動支援	・実用化開発支援			・SIC テクノロジー マッチング ・KSP 協創マッチング フォーラムに参画
2009 年度 (平成 21 年度)		・メンター制度 ・さがみはら企業力支援 事業 ・地域企業実態調査 (500 社)	・経済産業省「低炭素 社会に向けた技術発 掘・社会システム実証 モデル事業」を受託	・地域産業界の人づくり 支援事業 ・さがみはら未来塾 ・ベンチャー・中小企業 人材確保支援事業		
2010 年度 (平成 22 年度)	DESK® オープン	・ソーシャルビジネス創育 支援事業	・高度研究人材活用 事業（さがみはら表面 技術研究所） ・神奈川県パイオベン チャー人材活用事業			・台湾ビジネス マッチング開催 ・川崎市産業振興財団 新事業マッチング フォーラム参画
2011 年度 (平成 23 年度)	S I C - 3 オープン	・企業紹介冊子「おもしろ 企業の魅力拝見！」 出版 ・地域発信冊子「葦尾根 のブルーベリー」発行	・経済産業省「戦略的 基盤技術高度化支援 事業」受託 ・新製品開発のための 「協創プロジェクト」 ・相模原市から新技術 実用化コンソーシアム 形成支援事業を受託	・iSB 公共未来塾		・台湾工業技術研究院 と協定 ・SIC 台湾ビジネス センターオープン

3-3

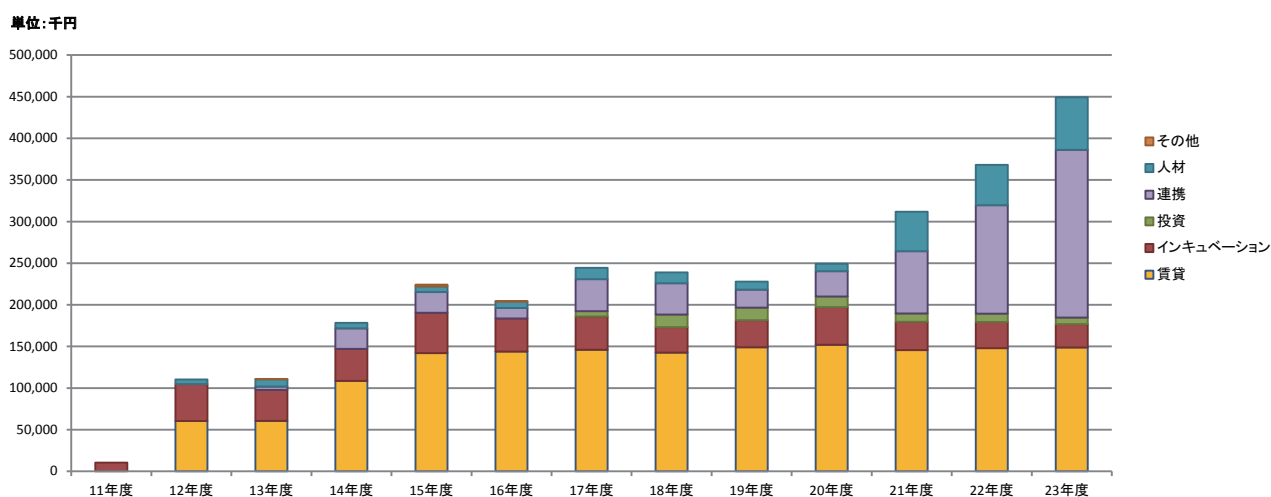
財務状況

P／L 推移



	11年度 (1期)	12年度 (2期)	13年度 (3期)	14年度 (4期)	15年度 (5期)	16年度 (6期)	17年度 (7期)	18年度 (8期)	19年度 (9期)	20年度 (10期)	21年度 (11期)	22年度 (12期)	23年度 (13期)
売上	10,429	110,264	111,008	178,323	224,271	204,022	244,523	238,812	227,805	247,560	311,824	368,145	449,221
営業利益	-22,122	1,257	-3,455	-4,101	32,523	19,804	9,914	4,219	5,620	11,946	16,397	9,080	19,283
経常利益	-19,522	3,922	1,256	1,817	35,141	21,656	11,200	5,910	4,242	11,604	4,514	10,568	-2,082

事業別売上推移



	11年度 (1期)	12年度 (2期)	13年度 (3期)	14年度 (4期)	15年度 (5期)	16年度 (6期)	17年度 (7期)	18年度 (8期)	19年度 (9期)	20年度 (10期)	21年度 (11期)	22年度 (12期)	23年度 (13期)
賃貸	0	60,473	60,622	108,655	142,026	143,982	145,990	142,525	148,914	151,930	145,552	147,969	148,705
インキュベーション	10,429	44,344	37,125	38,379	48,475	39,669	40,038	30,769	32,709	45,225	34,042	31,402	28,039
投資	0	0	0	0	0	0	6,250	15,000	15,000	12,915	9,999	10,000	7,917
連携	0	0	4,130	24,713	24,744	12,530	38,545	37,595	21,655	30,258	74,868	130,200	201,456
人材	0	5,447	8,629	6,576	6,785	7,809	13,699	12,922	9,525	8,969	47,363	48,574	63,105
その他	0	0	502	0	2,240	32	0	0	0	0	0	0	0
売上合計	10,429	110,264	111,008	178,323	224,271	204,022	244,523	238,812	227,805	247,560	311,824	368,145	449,221

3-4

当社及び SIC ファンドの出資状況

	当 社		SIC ファンド	
	入居企業	地域企業	入居企業	地域企業
平成 13 年度		1 社 (2,400)		
平成 14 年度		1 社 (2,100)		
平成 16 年度				
平成 18 年度	1 社 (5,000)		4 社 (120,000)	3 社 (71,000)
平成 19 年度	1 社 (5,000)		1 社 (20,000)	2 社 (92,000)
平成 20 年度			1 社 (20,100)	
平成 21 年度				1 社 (6,752)
平成 22 年度				1 社 (15,000)

* () 数字は金額 単位：千円

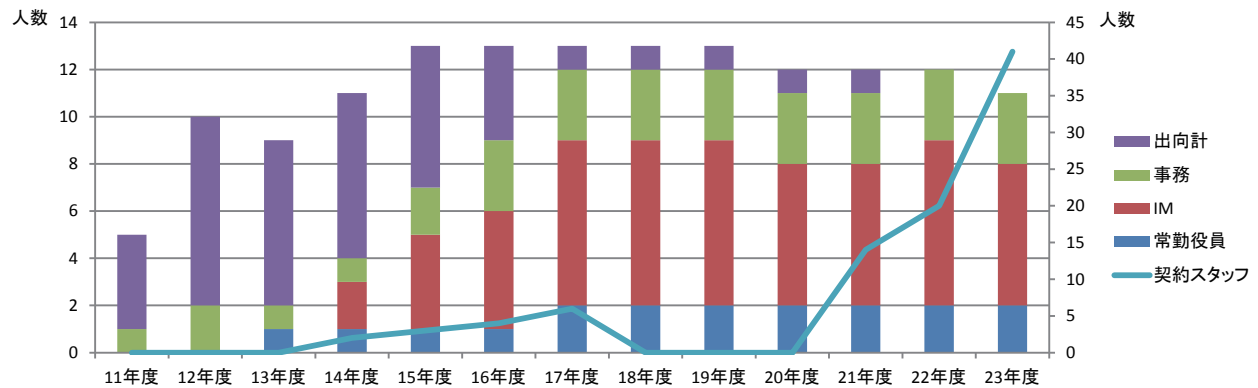
3-5

競争的資金の獲得

年 度	資金獲得先	事 業 名
平成 14 年度	経済産業省	即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業 「次世代デバイス用超高精度ナノレベル研磨・洗浄複合装置の開発」
平成 17 年度	神奈川県	新産業創出拠点形成促進事業 「燃料電池システムにおける本体及び周辺機器・部品の開発」
平成 20 年度	中小機構	川上川下ネットワーク構築支援事業 「次世代エネルギーシステムの早期実用化ネットワーク構築」
		新現役チャレンジ支援事業 「新現役人材による中小企業支援のモデル事業としてカイゼン支援プログラム開発」
		ビジネス・インキュベータ（ＢＩ）における広域的ネットワーク構築の調査事業 「“グループインキュベーション”手法の開発と検証ーネットワークによる支援と、手法のネットワーク化ー」
		神奈川県 ベンチャー創出促進モデルプロジェクト事業 「動物病院医療市場を対象とした犬のアレルギー及び免疫検査受託事業」 「静電エンコーダの事業化」
平成 21 年度	経済産業省	低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業 「太陽光雨水などの自然の恵みを有効活用した安全・安心な低炭素社会システムの構築」
平成 22 年度	経済産業省	中小企業海外販路開拓支援事業（台湾ビジネスマッチング） 「神奈川県ビジネス・インキュベータ連携によるＩＴ／エレクトロニクス分野研究関連型ベンチャー企業の海外販路支援事業」
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「表面形状を制御した低摺動医療用機能部品の要素開発」
平成 23 年度	経済産業省	戦略的基盤技術高度化支援事業 「次世代パワーデバイス向け革新的手法を用いた成膜技術の開発」
	中小機構	ＢＩネットワーク構築事業 「Ｔ－ＢＩＳＣの整備に協調・連携した国内外ビジネスマッチング事業」
	神奈川県	新産業ベンチャー事業化支援事業 「生物機能制御・改善のための体内時計調節剤及び関連試薬の開発」
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「表面形状を制御した低摺動医療用機能部品の要素開発」

3-6

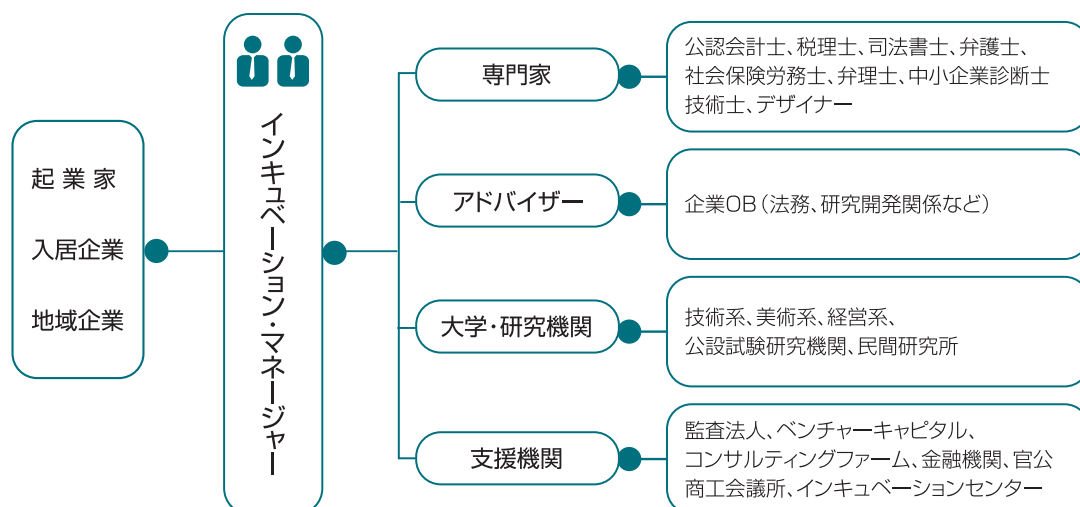
スタッフ数の変遷



	11年度 (1期)	12年度 (2期)	13年度 (3期)	14年度 (4期)	15年度 (5期)	16年度 (6期)	17年度 (7期)	18年度 (8期)	19年度 (9期)	20年度 (10期)	21年度 (11期)	22年度 (12期)	23年度 (13期)
常勤役員	0	0	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2
非常勤役員	13	13	13	13	15	15	13	12	11	10	10	10	11
IM	0	0	0	2	4	5	7	7	7	6	6	7	6
事務	1	2	1	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3
相模原市から出向	3	5	5	4	4	2	0	0	0	0	0	0	0
中小機構からの出向	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
銀行からの出向	1	3	1	2	1	1	1	1	1	1	1	0	0
出向計	4	8	7	7	6	4	1	1	1	1	1	0	0
計	5	10	8	10	12	12	11	11	11	10	10	10	9
契約スタッフ	0	0	0	2	3	4	6	0	0	0	14	20	41

3-7

支援ネットワーク



インキュベーション・マネージャー (IM) とは、

事業の創出・育成（ビジネス・インキュベーション）のための問題を起業家と一緒に考え解決する人であり喜びを共有し、良き相談相手となる人です。そして、事業を志す人に、事業開始から成長へ向けて種々の行う施設を起業家育成施設（インキュベーションセンター）といいます。

3-8

視察・研修の受け入れ

平成 23 年度 国内

名 称
公益財団法人 横浜企業経営支援財団
財団法人 日本立地センター ビジネス・インキュベーション(BI)研修
沖縄県宜野湾市
神奈川県川崎市
清水建設株式会社
兵庫県神戸市
明治大学
東京都豊島区
一般財団法人 機械振興協会

海外

年 度	名 称	国
平成17年度	・チュニジアベンチャーキャピタル協会 ・海外技術者研修	チュニジア アジア、アフリカ諸国
平成19年度	・集団研修地方自治体による民間産業活性化セミナー(JICA) ・モンゴル中小企業振興研修	アジア、アフリカ、中東、中南米諸国 モンゴル
平成20年度	・集団研修地方自治体による民間産業活性化セミナー(JICA)	アジア、オセアニア、アフリカ諸国
平成21年度	・集団研修地方自治体による民間産業活性化セミナー(JICA) ・韓国インキュベーションスタッフ研修	アジア、オセアニア、アフリカ諸国 韓国
平成22年度	・オマーン技術大学指導員研修 ・無錫市政府 ・マレーシア国職業訓練校指導員研修	オマーン 中国 マレーシア
平成23年度	・工業技術研究院 ・中国山東省(対日投資)視察団	台湾 中国

3-9

新聞掲載 (23 年度)

年月日	新聞名	表 題
2011.4.5	神奈川新聞	日台企業マッチングによる中小企業の国際化支援
2011.5.1	相模原市広報	SIC-3 i-Lab. 入居企業募集
2011.7.10	相模経済新聞	ものづくり企業パワーアップ 産学連携等支援
2011.7.18	日本経済新聞	台湾の研究所と VB 支援で提携
2011.7.20	神奈川新聞	台湾機関と協定を締結 企業支援など
2011.7.20	日経産業新聞	台湾の研究所と VB 支援で提携
2011.7.21	NNN.ASIA	さがみはら産業創造センター、工研院と提携[経済]
2011.8.1	相模経済新聞	台湾工業技術研究院と協定 日台企業の連携を促進 研究開発協業も
2011.8.2	日本経済新聞	台湾に拠点 市内中小支援
2011.8.10	相模経済新聞	3月に SIC 入居企業と台湾企業の商談会
2011.8.24	日本経済新聞	生まれたての企業 サポート手厚く 資金調達指南 低価格で施設貸出
2011.9.1	相模経済新聞	台湾企業とのビジネスマッチングが成功
2011.10.1	相模経済新聞	上溝の新ラボ引き合い好調 12月の開業を前に 70% 富山、岡山、海外も
2011.10.20	相模経済新聞	南西フォーラム 再生エネ最新動向紹介 太陽・燃料電池等
2012.4.1	相模経済新聞	ブルーベリー PR 冊子発行

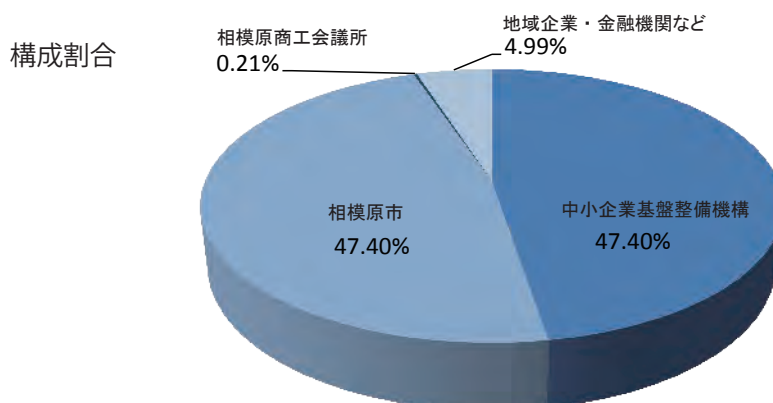
台湾での新聞記事

2011.7.19	経済日報	工研院联手日本 SIC 助中小企前進新興市場
2011.7.21	工商時報	工研院與 SIC 合作 進軍新興市場
2011.7.21	經濟日報	工研院 結盟日本産業中心

3-10

株主と役員

相模原市	独立行政法人中小企業基盤整備機構
株式会社ボイス	株式会社ハリマビシステム
古木建設株式会社	株式会社八千代銀行
株式会社横浜銀行	湘南デザイン株式会社
株式会社三菱東京UFJ銀行	相模原商工会議所
日本テクノ株式会社	城山工業株式会社
日本電子工業株式会社	三菱重工業株式会社
権田金属工業株式会社	株式会社相模運輸
相模原市農業協同組合	相模ガス株式会社
株式会社昭和真空	株式会社ア・ドマニー
篠崎電業株式会社	タイヨー印刷株式会社
東京海上日動火災保険株式会社	東邦電子株式会社
野村 隆	ブックオフコーポレーション株式会社
アイシンク株式会社	Apex 株式会社



代表取締役	中嶋 隆	
専務取締役	山本 満	
取締役	権田 源太郎	(権田金属工業株式会社 代表取締役)
	小俣 邦正	(株式会社昭和真空 代表取締役)
	松岡 康彦	(湘南デザイン株式会社 代表取締役)
	吉田 修一	(株式会社相模運輸 代表取締役)
	杉岡 芳樹	(相模ガス株式会社 代表取締役)
	山崎 利宏	(城山工業株式会社 代表取締役)
	加藤 一嘉	(相模原市 環境経済局 経済部長)
監査役	野村 隆	(野村会計士事務所 代表)
	座間 進	(相模原商工会議所 専務理事)
	圓谷 美智夫	(横浜銀行 相模原駅前支店 支店長)
	小林 秀郎	(八千代銀行 相模原法人営業部 部長)

資料（事業の変遷）

	事業名	委託先	11年度 (1期)	12年度 (2期)	13年度 (3期)	14年度 (4期)	15年度 (5期)	16年度 (6期)	17年度 (7期)	18年度 (8期)	19年度 (9期)	20年度 (10期)	21年度 (11期)	22年度 (12期)	23年度 (13期)
ラボ オフィス	SICー1														
	SICー2														
	SICー3														
	Desk⑩														
経営 サポート	ビジネスプランコンテスト	市													
	新分野進出支援事業	市													
	入居企業支援事業	センター													
	ステップアップサポート事業(地域企業向け)	センター													
	アントレフォスター事業(ブレインキューベーション)														
	起業家支援プログラム	八千代													
	地域企業実態調査	市													
	さがみはら青年アントレプロデュース事業	市													
	ベンチャー創出促進事業	県													
	SICビジネス交流会														
	SICフェア														
	カイゼン活動支援														
	メンター制度	市													
	トライアル雇用	市(雇用)													
	チャレンジショップ事業	市													
技術開発	新規成長産業連携支援事業	事業団													
	ミニコンソーシアム事業	センター													
	産学連携推進パイロット事業	センター													
	シーラボ事業(産学連携)	センター													
	ヒューマンデザイン開発支援事業														
	即効型地域新生コンソーシアム事業	経済局													
	周辺大学調査	市(雇用)													
	マーケティングラボ	市(雇用)													
	新技術創造研究会														
	燃料電池フォーラム	県													
	燃料電池研究会														
	首都圏南西地域連携フォーラム事業	市													
	SPS研究会														
	川上・川下ネットワーク構築事業	中小機構													
	IM合同研修会														
	BIネットワーク(IM研修)	中小機構													
	新現役チャレンジ支援(カイゼン活動支援)	中小機構													
	実用化開発支援	市													
	低炭素社会実証モデル事業	経済局													
	表面技術研究所	県(緊急)													
	ヘルスサイコロジー研究所	市(緊急)													
	バイオベンチャー人材活用事業	県(緊急)													

資料（事業の変遷）

	事業名	委託先	11年度 (1期)	12年度 (2期)	13年度 (3期)	14年度 (4期)	15年度 (5期)	16年度 (6期)	17年度 (7期)	18年度 (8期)	19年度 (9期)	20年度 (10期)	21年度 (11期)	22年度 (12期)	23年度 (13期)
人材育成	女性起業家育成セミナー	会議所、市													
	中間管理職のリーダーシップ研修	会議所													
	リスクヘッジセミナー	会議所													
	中小企業のための技術セミナー	会議所、財団													
	K-3パワーアップセミナー	会議所													
	経営幹部育成講座	会議所													
	創業塾	会議所													
	管理者育成講座	会議所													
	株式公開塾														
	入居企業セミナー														
	経営者育成塾	センター													
	人材開発セミナー	会議所													
	コンピテンシーセミナー	会議所													
	子どもアントレプレナー体験事業(小)	実行委員会													
	子どもアントレプレナー体験事業(中、高)	実行委員会													
	SIC経営塾														
	SIC経営者セミナー	八千代													
	SICアントレ・インターン	市													
	もづくり技術支援フォーラム	市													
	SIC起業家塾														
	SIC職場リーダー養成塾	市													
	さがみはら未来塾	市													
	企業取材バスツアー、交流会	市													
資金調達	SIC1号投資事業有限責任組合														
販路開拓	海外販路開拓支援事業	経済局													
	台湾ビジネスマッチング														
	SICテクノロジーマッチング														

委託先略称

市	相模原市
会議所	相模原市商工会議所
財団	相模原市産業振興財団
県	神奈川県
センター	神奈川中小企業センター
中小機構	中小企業基盤整備機構
事業団	中小企業総合事業団
経済局	関東経済産業局
八千代	八千代銀行